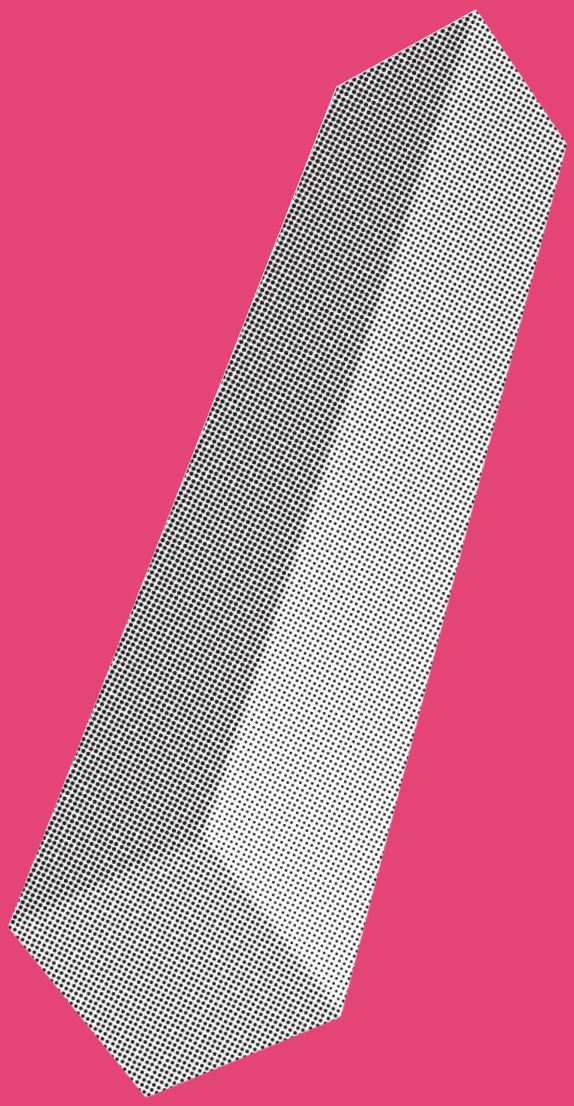
IAMAS
RCIC Annual Report
2024

IAMAS産業文化研究センター　年次報告書

IAMAS RCIC Annual Report 2024



RCICと3つの役割について 04

地域連携・産学官連携活動 06

岐阜かかみがはら航空宇宙博物館・イアマスこどもだいがく

文化活動 10

Ogaki Mini Maker Faire 2024

「清流の国ぎふ」文化祭2024 DX時代のメディア表現――新しい日常から芸術を思考する

2024年度のRCICの活動を振り返って 14

2024年度IAMASの活動事例 16

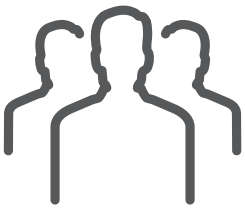
2024年度活動リスト 20

各活動情報等については、本センターWebサイトでも常時公開しており、より詳細な情報や、紙面ではお見せできない動画等のコンテンツもご覧いただけます。
本書の各ページに掲載しているQRコードから、それぞれの活動関連ページにアクセスいただくことができます。

RCIC Webサイトはこちら

過去の年次報告書はこちら

産業文化研究センター（Research Center for Industrial Culture 通称RCIC）は2011年度より開設されたIAMASの附置研究機関です。
産業文化に関する学際的・総合的な研究を行うとともに、学外の諸機関との連携を図りつつ、本学の社会的機能を維持・発展させることを目的とし、以下の3つを軸として活動しています。



地域連携・
産学官連携活動

文化活動

広報・
情報アーカイブ活動

IAMAS の活動の社会的な展開を目指す

地域連携・産学官連携活動

IAMASの教育研究活動を広く社会に周知し、また、研究成果を活かした産学官連携や地域連携を行っています。
県内外の企業、自治体や教育機関、非営利団体や地域コミュニティ等とさまざまな連携を試行しています。

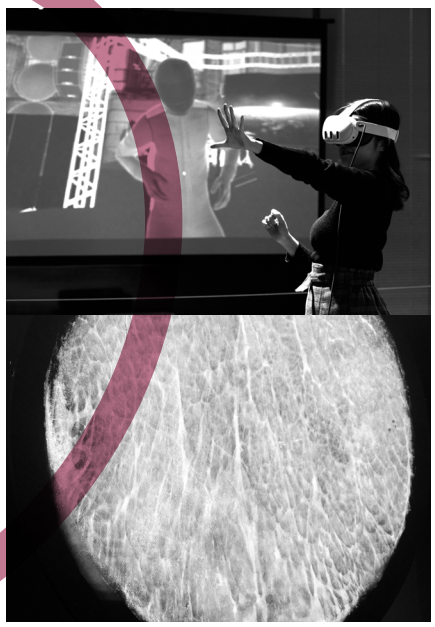
- 学内シーズ（技術・デザイン等）や研究成果の紹介
- 教育研究機関との研究連携
- 営利企業や非営利団体、自治体との共同研究や受託研究
- 自治体や教育機関との連携による新しい教育事業の推進
- 県内研究機関とのネットワーク構築

IAMAS の活動を広く社会に広めるための

文化活動

教育・文化機関とのネットワークを築き、学内での展覧会・交流会やイベント等、
さまざまな文化的な催しの運営・補助を行っています。
また、大小さまざまなレクチャーやシンポジウムの企画・運営も行っています。

- 卒業制作展の監修
- 学外連携事業の企画・運営
- IAMASオープンハウスの監修
- レクチャーやシンポジウム等の企画・運営



教育・文化的な貢献や情報発信を目指した

広報・情報アーカイブ活動

IAMAS Webサイトの運営、広報物の制作・管理、アーカイブ機能としての
展覧会カタログ等の刊行物制作、学内イベントの記録構築等を行っています。
また、県内の研究機関・研究者とのネットワーク構築や、IAMAS卒業生との
連携・協力等によるIAMASネットワークの強化にも力を入れています。

- Webサイトの運営
- SNSによる情報発信
- 広報物の企画制作・管理
- 展覧会カタログ等の刊行物の企画・制作・監修
- 学内の研究成果報告を目的とした展示会の企画・運営
- 教員や学生の地域連携・産学官連携活動に関する調査と報告
- 卒業生を対象とした連携企画の運営

Feature 地域連携・産学官連携活動　岐阜かかみがはら航空宇宙博物館・イアマスこどもだいがく

岐阜かかみがはら航空宇宙博物館（愛称：空宙博 そらはく）では、2022年から子ども向け講座「ジュニア宇宙博士認定講座」のデザインをIAMASの施設「イノベーション工房」およびIAMAS卒業生のデザイナーと連携して展開している。あわせて、昨年度から同講座でARを通して学習・鑑賞するシステムを設計し、子どもたちが体験的に学習する展示空間のあり方を検討している。

今年度は、学習テーマである「宇宙開発」および「月面探査」をモチーフに、トータルデザインを意識した教材の開発に取り組むとともに、「宇宙開発」および「月面探査」を体感するコンテンツとして、月面をARを通して学習・鑑賞するシステムを設計し、空宙博と協働してワークショップを運営した。

2024年度ジュニア宇宙博士認定講座修了証

プロセスと成果

今年度の講座テーマである「月面探査」をモチーフに、小学校高学年から中学生の子どもたちが学びや達成感を自覚的に得られるよう、全6回の講座を通し活用していく教材のデザイン、制作を行った。今年度の修了証は、月面の凹凸を触って学べるデザインとして、月面をモチーフにしたパズルを作成し、講座終了後も宇宙や月に対する関心を持ち続けてもらうよう工夫を施した。アクリル板の裏面には講座内容を印字し、振り返りにも役立つことを目指した。

上：AR教材について空宙博学芸員からレクチャーを受ける参加者たち
下：2人1組になり、ARで月面探索をする様子

「月面」を体感する講座のトータルデザインとARアプリケーション開発
ー岐阜かかみがはら航空宇宙博物館との共同研究

なお、今年度より、発表スライドなど、空宙博側で作成できるものは担当を移行させ、空宙博が主体的にデザインに参画できるかたちを目指した。また、デジタルファブリケーション機器の特性などを空宙博側が知る機会として、空宙博側にIAMASイノベーション工房を見学してもらい、特に修了証のデザインにおいて共同制作を進めた。

さらに、昨年度から同講座で進めているAR教材の開発においては、今年度は常設展示実装を検討しつつ、「月面探査」をARで体感するアプリケーション開発を行った。
受講した子どもたちは、ARで再現された月面、および、パラメーターで表示される月面の条件を総合的に観察し、基地建設に最適な場所を探索することで、宇宙開発に関心を持ち、主体的に学んでいった。子どもたちからは、遊びながら学ぶことの楽しさや「リアルな月面の様子に」満足感を得ることができた。

■ 詳細情報

■ 開催場所
岐阜かかみがはら航空宇宙博物館
IAMASイノベーション工房

■ 担当教職員と協力者
トータルデザイン：大山千尋（IAMAS卒業生）／修了証デザイン・制作：塩澄祥大（IAMASイノベーション工房）／AR開発：伏田昌弘（株式会社 マーブル（東京コンピュータサービス株式会社））／運営：赤羽亨（IAMAS教授 / RCICセンター長） 高森順子（RCIC研究員）／撮影：福島諭（RCIC研究員） 伊藤晶子（RCIC情報支援専門職）

■ スケジュール
2024.04 打ち合わせ・イノベーション工房見学
2024.06 AR開発
2024.05-08 教材開発、講座実施

メディア表現を活用した体験型学習「イアマスこどもだいがく2024」ー大垣市との共同研究

芸術や科学といった領域を越えた新しい「もの」や「こと」を創造するという、IAMASの理念を小学生向けのワークショップとして展開する「イアマスこどもだいがく」。今年はインターネットをはじめとした多様なネットワークのあり方を体感するワークショップ「もしもしワールド ～糸でんわから考える通信コミュニケーション～」を企画、運営した。このワークショップを通じて、子どもたちが通信技術の仕組みを知るとともに、メディアの特性に応じた「作法」を体験し、メッセージの送り方・受け取り方を自ら工夫することを楽しみながら考えられる場となることを目指した。

■ 開催詳細・場所
7月27日（土）10:30 ～ 12:00（午前の部）
同日13:00 ～ 16:00（午後の部）
対象：大垣市内の小学3年生～6年生
ソフトピアジャパン・センタービル12F
IAMAS C1202（大垣市加賀野4丁目1-7）

■ 主催
大垣市／情報科学芸術大学院大学［IAMAS］

■ 担当教職員と協力者
ワークショップ運営：小林史佳（M1） 牛尾日莉（M1） 菊田佳恵（M2）三波蒼菜（M2） 橋本正隆（M2）／協力：鈴木宣也（IAMAS教授 / 学長） 赤羽 亨（IAMAS教授 / RCICセンター長） 高森順子（RCIC研究員）／写真撮影：徳保晴人（M2）／映像撮影：小濱史雄（IAMAS卒業生）／映像編集：船山哲郎／フライヤーデザイン：大山千尋（IAMAS卒業生）

■ スケジュール
2024.04 ワークショップ詳細打ち合わせ
2024.07 ワークショップ実施
2024.08 アンケート内容の共有および意見交換

■ 詳細情報

連携までの流れ

IAMASでは、県内外の企業、自治体や教育機関、非営利団体や地域コミュニティ等と連携することで、本学の情報科学技術と地域文化研究の成果を深化させるとともに、連携の成果によって地域社会へ貢献することを推進しています。附置機関である産業文化研究センターが、連携の相談から、教員やプロジェクトとのコーディネート、研究や事業契約の締結等のサポートを行っています。

企業　自治体　教育機関　非営利団体　地域コミュニティ

RCIC（産業文化研究センター）へ連絡

相談

担当研究者との相談を経て、連携内容を決定

研究契約の締結

共同研究

受託研究

報告書・成果納品

知的財産

※連携の方法によって知的財産権の扱いが異なります。

その他

※共同研究や受託研究に該当しない連携もあります。

共同研究　企業等の研究員と本学の教員とが、共通の課題について対等の立場で研究を行う制度です。これに要する経費は双方で負担します。研究は、それぞれの場において進めます。企業研究員を学内に受け入れての共同研究も可能です。双方の研究員が共同で行った発明等にかかる特許権等については、企業等は優先的実施権を行使できます。

受託研究　企業等からの委託を受けて、本学の教員が研究を実施し、その結果を報告する制度です。これに要する経費は委託者の負担となります。民間企業等からの研究員の派遣は不要です。特許権等は原則として本学に帰属しますが、優先的実施権を行使できます。

上・下：岐阜市役所 市民協働推進部 ぎふメディアコスモス事業課と連携した
「メディコス広場 メディアラボ製作ワークショップ」の成果展示の様子

Feature Ogaki Mini Maker Faire 2024

引き継ぎ、発展する「つくることからはじめよう。もの／あそび／ぶんか」

会場風景（一階）

Maker Faire（メイカーフェア）は、電子工作、ロボティクス、クラフト、ペーパークラフト、電子楽器、サイエンス、リサイクル/アップサイクルなど、様々な分野のつくり手「Maker（メイカー）」たちが全国から集まり、つくったものを見せ、語り、その楽しさが伝播していくメイカームーブメントの祭典。

Mini Maker Faireはコミュニティが主催するローカル版であり、大垣での開催は2010年に開催した前身となるイベントから数えて早くも8回目となった。

引き続き「つくることから、はじめよう。もの/あそび/ぶんか」をテーマに掲げ、地方開催ならではのゆったりとした空間と雰囲気を大切にしながら、これまでの良さを引き継いだイベントとして開催した。

また、今回は様々な事情で物理会場には来場できない人々も参加できるよう、イベントの周知を兼ねたプレイベントを事前に〈メタバース〉会場で開催した。結果として、5000名を超える多くの参加者に恵まれた。既存の定義に囚われずにテクノロジーを自在に解釈し、多彩な作品として表現するMakerの作品が一堂に会する会場で、来場者の笑顔が印象に残るイベントとなった。

今回は合計116組による出展となった。本イベントではMakerによる作品出展に加えて、プレゼンテーション・ワークショップも合わせて実施された。プレゼンテーションは12組の発表があり、発表の様子はYouTube Liveでも同時配信された。ワークショップは9組が実施した。今回は出展組数も増えたことから、共通のワークショップ・スペースは作らず、各出展ブースにワークショップ用のテーブルを設ける形で行なった。

また、関連イベントとしてヘボコン＆デイリーポータルZによる「ヘボコン in 大垣」と、NxPC Lab.によるライブパフォーマンスも合わせて実施された。

今回新たな試みとして、開催日の1週間前に行われたプレイベントがある。メタバースプラットフォーム「cluster」の〈メタバース〉会場で行われた。3組の出展者によるプレゼンテーションを組み入れた本イベントは、プレゼンテーションを聴くホール（ライブ配信あり）と、全ての参加者が発話やチャットにより交流できるルームを自在に行き来できるよう組み合わせたことにより、多様な形態で参加できる場となった。

「Ogaki Mini Maker Faire 2024」のプレイベントの様子

本イベントの目的は、さまざまなMakerとの作品を通じた交流・対話から、来場者とのものづくりに対する楽しさや親しみを共有する機会を生み出すことにある。前回よりも出展者数が増えた会場は、幅広い年齢層、多様な興味関心をもつ多くの来場者で賑わった。コロナ禍においても人々の交流を絶やさぬよう様々な試みを行なってきた本イベントであったが、今回ようやく、通常通りの開催ができたことになる。

また、出展者がお互いの作品をじっくり鑑賞する時間がないなど、これまで来場者から上がっていた要望に応え、1日目の閉場後に出展者同士の交流会を行なった。これにより、Maker同士がお互いの作品に触れ、心置きなく意見交換できる時間をつくることができた。

Maker達の作品に触れ、言葉を交わし、子供達の素直な反応に笑顔を見せる。来場者の多くがそんな穏やかな時間を過ごしているのが印象的だった。

関連イベント「ヘボコン in 大垣」の様子

■ IAMASの役割

岐阜県内の企業、教育機関、自治体で構成される実行委員会の事務局として、本学の事務局と産業文化研究センターが中心となり、〈メタバース〉会場でのプレイベントならびに本イベントの企画・調整・デザイン・広報から当日の運営に至るまで全ての段階に総合的に関わった。

■ 連携先

Ogaki Mini Maker Faire 2024 実行委員会
株式会社オライリー・ジャパン

■ 開催時期・場所

2024年11月23日（土・祝）12:00 ～ 17:00
11月24日（日） 10:00 ～ 16:00
情報科学芸術大学院大学［IAMAS］ソフトピアジャパン・センタービル
（プレイベント：2024年11月16日（土）15:00 ～ 17:00 〈メタバース〉会場：cluster）

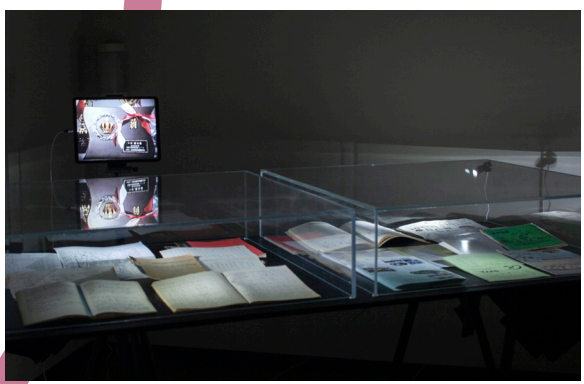
■ 担当教職員と協力者

総合ディレクター：小林茂（IAMAS教授）／ディレクター：福島諭（RCIC研究員）／会場構成・プロジェクトマネージャー：八嶋有司（アーティスト）／Web広報：伊藤晶子（RCIC情報支援専門職）／デザイン：大山千尋／記録：小濱史雄（映像作家）、小寺優希子／運営協力：廣瀬周士（sketch on主催）、大越円香（現代美術作家）／運営：山田陽子（IAMAS事務局）

■ 詳細情報

Feature **「清流の国ぎふ」文化祭 2024 DX 時代のメディア表現――新しい日常から芸術を思考する**

2024年11月1日から7日までの1週間、第39回国民文化祭（通称名称『「清流の国ぎふ」文化祭2024』）の関連プログラムとして、「清流の国ぎふ」文化祭2024 DX時代のメディア表現――新しい日常から芸術を思考する」が情報科学芸術大学院大学［IAMAS］で開催された。本展は、メディア技術をアートに接続し、時空間の温故知新を問う、メディア表現の展覧会とトークセッションで構成され、メディア・アーティストの藤幡正樹や2024年のヴェネチア・ビエンナーレ日本館で展示をした毛利悠子ら15組が参加した。
本展ディレクターの松井茂（IAMAS教授）は「コロナ禍を経て、デジタル技術を介したコミュニケーションが日常化しつつある。本展は、こうした新たな日常を経て、さらなるデジタルトランスフォーメーション（＝DX）のヒントとなる思考を一堂に会した」展覧会であると位置付け、鑑賞者は本展で示された「新しい日常から芸術を思考する」という視点を体感した。

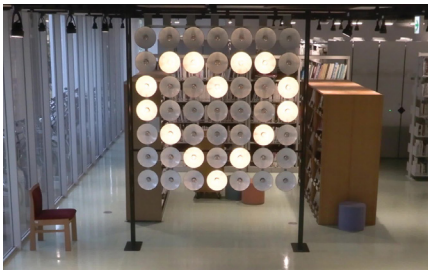


「ここ・よそ」と「過去・現在・未来」を繋ぐ、DX時代のメディア表現

本展はオフライン（IAMAS附属図書館、宿泊施設「ソピア・キャビン」）とオンラインで展開し、あわせてトークイベントやライブも配信された。特に、ハイブリッドで展開した藤幡正樹の《Light on the Net》は、インターネットによって切り拓かれた「ここ」と「よそ」を接続する、新たなブラウザの提案を含む作品であった。情報産業の拠点として1996年にオープンしたソフトピアジャパンセンタービルに設置されていた同作は、一時撤去されていたが、2024年にIAMAS附属図書館に設置された。コロナ禍を経て一般化したオンラインを介したコミュニケーションであるが、ネット黎明期にすでにデジタル・トランスフォーメーションを先取りしていた本作は、岐阜県大垣市の先取の気風と、IAMASが目指す、アートとテクノロジーによる社会実践を象徴していたといえる。

また、会期中の11月4日（月・祝）にはIAMAS附属図書館においてトークイベント「新しい日常から芸術を思考する」が開催された。畠中実（ICC主任学芸員）、尹志慧（ゆん　じへ）（国立新美術館特定研究員）と、本展ディレクターの松井茂が登壇し、コロナ禍における過去の展覧会の取り組みを紹介したうえで、本展に向けての意見交換を行った。トークイベントの前後では、谷口かんな（音楽家）による三輪眞弘作曲《呪い（まじない）ツイッター》の再演が行われた。藤幡正樹《Light on the Net》を正面に向かい合う形で行われた2度の演奏は、会場に集まった鑑賞者、オンライン視聴を行う鑑賞者、そして《Light on the Net》の電球の明滅にアプローチする参加者の気配の中で行われた。それは、「空間と時間の隔たりを超越することに着目し、「ここ・よそ」と「過去・現在・未来」を繋ぐ、「・」を意識したい」という本展の趣旨をリアルタイムに体験する時間となった。

トークイベント「新しい日常から芸術を思考する」



藤幡正樹《Light on the Net》

■ 主催
情報科学芸術大学院大学［IAMAS］

■ 協力
久松真一記念館、OKB総研

■ 開催時期・場所
2024年11月1日（金） ー 2024年11月7日（木）
12:00 ～ 18:00
オンライン、ワークショップ24
（1階 IAMAS附属図書館、7階 ソピア・キャビン）
（岐阜県大垣市今宿6丁目52-18）

■ 参加者（50音順）
青柳菜摘＋佐藤朋子、Archival Archetyping、赤松正行、池田町有線放送電話プロジェクト、クワクボリョウタ、谷口かんな、平瀬ミキ、藤幡正樹、誉田千尋、前林明次、ミズタニタマミ、三輪眞弘、毛利悠子、安喜万佐子＋前田真二郎、山下麻衣＋小林直人 ほか

■ 担当教職員と協力者
ディレクター：松井茂（IAMAS教授）／会場構成：冨田太基／テクニカル：土方大／Webデザイン：西田騎夕／運営：山田陽子（IAMAS事務局）

■ 詳細情報

2024年度のRCICの活動を振り返って

2024年度は、「清流の国ぎふ」文化祭2024の実施に伴い、県内各所で様々な文化イベントが行われました。その一環として、IAMASにおいても「DX時代のメディア表現――新しい日常から芸術を思考する」展、「Ogaki Mini Maker Faire 2024」が開催されました。また、「清流の国 文化探訪『南飛騨 Art Discovery』」でのクワクボリョウタ教授の作品展示や、運動体設計プロジェクトによる「スイトピア×イアマス連携展示　うごキズム ～うごく・うごかす・うごきをみる～」など、県内での展示も行われました。

「地域連携・産学官連携活動」としては、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館との共同研究に重点をおいて活動しました。共同研究も3年目を迎え「学習資源を活用した学習環境デザインに関する研究」、「博物館での教育普及活動におけるAR教材コンテンツ活用に関する研究」、「博物館におけるXR技術の適用に関する研究」の3つのテーマでそれぞれ研究成果をあげています。この成果を基盤として、博物館による学習コンテンツ開発や、XR技術を活用した展示計画への展開などが期待されています。この他、大垣市と共同で行っている「イアマスこどもだいがく」についても引き続き実施しており、参加者にも好評を得ることができました。
産学連携は、県外企業との共同研究によって定常的に行われており、新たな共同研究に向けた協議も行われています。その一方で、県内企業との連携は進んでいない点が課題として残っています。来年度以降は県内企業との連携についても重点的に取り組んで行く予定です。

「広報・情報アーカイブ活動」について、Webサイトのコンテンツ拡充と更新頻度の向上に取り組みました。また、展示広報では「清流の国ぎふ」DX推進フォーラムでの展示を行うことができました。音声ガイドアプリの実験を進めてきており、今後は、このアプリを使った展示広報についても取り組んでいく予定です。

RCIC センター長
赤羽 亨

RCIC のスタッフ紹介

センター長を含む教員 3 名、研究員 2 名、情報支援専門職員 1 名、技術支援専門職員 1 名で運営しています。

赤羽 亨（Kyo Akabane）
RCIC センター長 / IAMAS 教授
インタラクションデザインの観点から、メディアテクノロジーを活用した協働デザインのための環境構築に関する実践的な研究を行っている。

平林 真実（Masami Hirabayashi）
IAMAS 教授
コミュニケーションシステムという観点から研究を実施。近年はNxPC.Lab名義の音楽イベントを起点に音楽体験の拡張をテーマとした研究を行っている。

前田 真二郎（Shinjiro Maeda）
IAMAS 教授
映像作家として撮影行為を基盤とした映像表現を研究。舞台、音楽、美術領域の作家との協働を積極的に展開し、展覧会等の企画運営も担当する。

福島 諭（Satoshii Fukushimai）
研究員
RCICでは文化活動を担当し、学内外のIAMASに関わる展覧会等の企画運営や広報媒体のディレクションなどを行う。専門はアルゴリズミック・コンポジション。

高森 順子（Junko Takamorii）
研究員
RCICでは主に学外の企業や自治体との共同研究・地域連携ネットワーク構築といった連携推進業務を担当する。専門はグループ・ダイナミックス。

伊藤 晶子（Shoko Ito）
情報支援専門職員
RCICでは主に大学院の広報活動を担当。IAMAS関連のWEBの企画・制作・運営を行う。専門は情報デザイン。

塩澄 祥大（Shota Shiozumi）
技術支援専門職員
イノベーション工房の運営を担当し、デジタルファブリケーションを活用した研究・連携支援を行う。専門は実験映像。

RCICメンバーレポート

RCIC では、IAMAS の広報、及び今後の RCIC の活動に向けたリサーチの一環として、本学の多様な取り組みの様子や、学内外のユニークで先進的な取り組みを行っている方々の活動等をレポート形式で紹介しています。
レポートは本学 Web サイトで常時公開しており、下記 QR コードからもご覧いただけます。

お問い合わせ

RCIC では IAMAS との連携に関するご相談を受け付けております。ご希望の方は、メール、または下記お問い合わせフォームよりご連絡ください。

メール : rcic@ml.iamas.ac.jp

お問い合わせフォーム

展覧会
「スイトピア×イアマス連携展示うごキズム ～うごく・うごかす・うごきをみる～」

実施期間　2024.09.28 — 11.04

《スマホスタジオ》とスマホの画面

動きの新たな視点を探る展示

大垣市スイトピアセンターとの連携展示として、小学生以上を対象に、動きを体感する3つのプラットフォームを企画・制作した。学生と協働し、1）複数のiPadによる多視点カメラでのインタラクション「うごキスト」、2）スマートフォンを台車に乗せ視点を転換する「スマホスタジオ」、3）モアレ干渉法で動きと形を再発見する「かんしょうこう」を制作し、従来のキネティック・アートとは異なる視点で動きを体験できる場を提供した。

上：《うごキスト》

上：《かんしょうこう》の展示空間の様子

■ 担当教員

赤松正行（IAMAS 教授）　クワクボリョウタ（IAMAS 教授）　瀬川晃（IAMAS 准教授）

展覧会「遍在、不死、メタモルフォーゼ」

実施期間　2024.04.27 — 05.26

生は連続し、混合する。
芸術はわたしたちを貫き、変容する。

「あらゆる生きものは同じ一つの生である」（エマヌエーレ・コッチャ『メタモルフォーゼの哲学』）。人類の活動が地球全体へ深刻な影響を及ぼす「人新世」において、私たちはいかに人間中心主義を乗り越えられるのか。非人間存在を思いやり、地球環境に配慮するとはいかなることか。「メタモルフォーゼ」は深い共感を可能にする。「伝統と革新」を象徴する野心的空間・瑞雲庵において、世代・表現領域の異なる6人の日仏アーティストが、アートをつうじてエコロジーを問う。

企画・キュレーション: 大久保美紀　（「西枝財団瑞雲庵における若手創造者支援事業2024採択）

左上：石橋友也《金魚解放運動》（2012-2017, 2024改作）
HD Video,（5 :33）
右上：入江早耶《摩利支天ダスト》（2024）
掛軸•消しゴムのカス•樹脂掛軸 850×440×41mm
左下：ジャン＝ルイ・ボワシエ《Crassula ubiquiste》（1985-）
クラッスラ・オバタ（カネノナルキ）の12の鉢植え
右下：クワクボリョウタ《LOST #20》（2024）
日用品•鉄道模型•LED　7780×3859mm

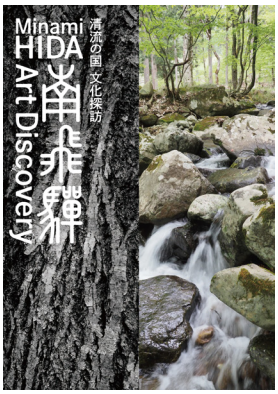
■ 担当教員
大久保美紀（IAMAS准教授）　クワクボリョウタ（IAMAS教授）

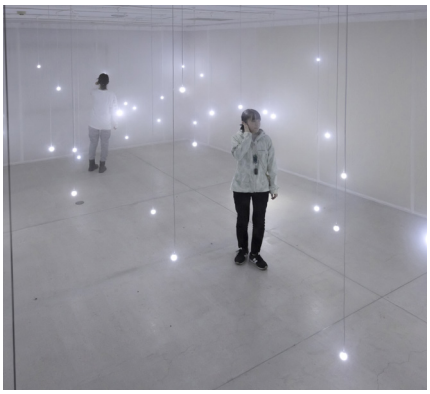
仮想温泉（芸術祭「清流の国 文化探訪 南飛騨 Art Discovery」）

実施期間　2024.10.19 — 11.24

温泉の靄に人との縁を擬える

この作品では、来場者がレシーバを使い、光を音として体験する。靄に包まれた空間には変調した光が点在し、作品の中を歩くと湯の音に交じって地元の人々の話し声が立体的に聞こえてくる。温泉が持つ日常の緊張を解きほぐす雰囲気をモチーフに、情報社会の速達性や透明性、そしてそれが引き起こす過剰な干渉への懐疑を着想源としている。語らいに近づいたり遠ざかったりする動きの中で、程よい「縁」の距離感を思い起こすことを意図した。





左：芸術祭フライヤー
（南飛騨 Art Discovery 提供）
右：《仮想温泉》
photo by Osamu Nakamura

■ 担当教員
クワクボリョウタ（IAMAS教授）

神楽岡久美・菅実花「PROTOPIA」

実施期間　2024.08.03 — 08.18

神楽岡久美と菅実花による2人展「PROTOPIA」が開催された。神楽岡は「美力」を軸に、社会的・文化的な身体像をリサーチし、立体作品やドローイングを通じて、美的価値と身体改造の関係を探究。菅は「機械の眼」を題材に、赤外線や紫外線を捉えた写真作品や、ツバメをモチーフにした映像とドローイングを展開した。ケヴィン・ケリーの概念「プロトピア」を背景に、ユートピアでもディストピアでもない、近未来の姿を描き出した。

上：展覧会フライヤー
右：展示風景

未来の身体と視覚を探る2人展「PROTOPIA」

■ 担当教員
菅実花（IAMAS准教授）

日々“hibi”AUG（ドキュメンタリー・ドリーム・ショー　山形 in 東京 2024）

実施期間　2024.11.04 14:30 新宿 K's cinema , 11.14 18:20　アテネ・文化センター

前田真二郎教授の《日々“hibi”AUG》が「ドキュメンタリー・ドリーム・ショー 山形in東京2024」で上映された。本作は2008年から2022年までの8月を毎日15秒ずつ記録し、15年間の映像を繋げた2時間の長編映画で、時間の流れや日常の積み重ねを独自の手法で描き出した作品だ。上映後、アテネ・フランセ文化センターでアフタートークが行われ、作者による解説や観客との質疑応答が活発に交わされた。

左：上映イベント・ポスター
右：アフタートークの様子

国際映画祭の東京巡回上映イベントへの本学教員作品の出品とアフタートーク

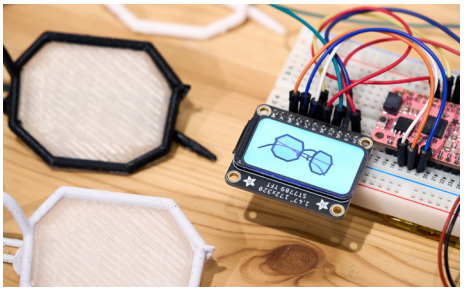
■ 担当教員
前田真二郎（IAMAS教授）

展覧会「glow – in practice」

実施期間　2024.11.29 — 12.11

試行の成果展示を通じた新たな表現研究の可能性の提案

新宿眼科画廊 地下スペースにて、展覧会「glow – in practice」を開催した。
メディアテクノロジーを介在させた表現研究を中心に、研究成果やそこから生まれた新たな表現についての展示を行った。研究成果や様々な試行の成果を「体験可能」な状態で提示し、その体験を起点にした議論の場とすることを通して、新たな協働の可能性を発見する場とすることを目指した。



上・左：展示写真

■ 担当教員
赤羽亨（IAMAS教授）　飛谷謙介（IAMAS准教授）

2024年度活動リスト

名称	開催時期	場所・主催・共催・出版社・その他	担当教職員	カテゴリー
場所・感覚・メディア ー「Sonic Interface」	2023.12.01 — 12.03	ビッカフェ (場)	前林明次　小林孝浩	展示 文化活動
フリースタイルの継承　久松真一図書資料展	2024.01.24 — 03.01	IAMAS附属図書館	松井茂	文化活動
哲学者・久松真一の思想、多彩な資料で大垣・IAMASで企画展	2024.02.06	中日新聞	松井茂	掲載
岐阜の思想家・久松真一の実像探る	2024.02.27	讀賣新聞	松井茂	掲載
いぶきの縁側ラジオ	2024.04.01 — 翌03.31	社会福祉法人いぶき福祉会	金山智子	コンサルテーション
サイン管理：ソフトピアジャパンセンター	2024.04.01	伊藤忠アーバンコミュニティ・グループ	瀬川晃	制作・開発・デザイン 地域連携
トークイベント「鏡としてのアート」	2024.04.13	KANA KAWANISHI GALLERY	菅実花	出演
The Future of HCI : Spatial Computing	2024.04.17	sadi（Samsung Art and Design Institute）(場)	赤松正行	講演
共感と芸術②「遍在、不死、メタモルフォーゼ」私たちはいかに人間中心主義を乗り越えられるのか？	2024.04.26	未来に残したい授業	大久保美紀	出演 講演
遍在、不死、メタモルフォーゼ	2024.04.27 — 05.26	art-sensibilisation (主)、瑞雲庵 (場)	大久保美紀 クワクボリョウタ	展示 採択
運動体設計 特別講座「自転車と空間コンピューティング講座」	2024.04.30 — 06.01	情報科学芸術大学院大学［IAMAS］(場)	赤松正行　クワクボリョウタ 瀬川晃	ワークショップ
第5回空宙博ジュニア宇宙博士認定講座	2024.05.19 — 08.11	岐阜かかみがはら航空宇宙博物館 (主・場)	赤羽亨　高森順子　塩澄祥大	共同研究 産学官連携
アートマネジメント人材養成講座＆長栄座をさらに楽しむプレ企画	2024.05.26 — 07.07	滋賀県立文化産業交流会館 (場)	小林昌廣	フォーラム
岐阜北高校　探求学習の時間	2024.06.01 — 翌02.01	岐阜北高校	金山智子　浅尾楽	授業担当
歌舞伎を観るということ（ゲスト：ロバートキャンベル）	2024.06.15	国指定重要有形民俗文化財「村国座」(場)	小林昌廣	フォーラム
NxPC.Live vol.69 ウィ！	2024.06.15	IAMAS Gallery1	平林真実	パフォーマンス・上演
＜Meet STEAM＞　科学xアートで生命に迫る	2024.06.15	中日新聞	ホアン・マヌエル・カストロ	掲載 研究・リサーチ
日本記号学会第44回大会『「繭としての技術」の領域越境性とその問題点』	2024.06.22 — 06.23	鹿児島大学 (場)	大久保美紀	研究・リサーチ 学会
FORMATA - S+T+ARTS Prize 2024 ノミネーション	2024.06.24	Ars Electronica Festival	ホアン・マヌエル・カストロ	受賞 文化活動
日本人形玩具学会第36回総会・研究発表大会：若手フォーラム「人形・玩具表象とジェンダー」	2024.06.29	一般社団法人日本人形玩具学会 (主) 慶應義塾大学(場)	菅実花	学会
『テクノロジーの〈解釈学〉』草稿読書会	2024.06.29 — 07.12	FabCafe Kyoto、TOUTEN BOOKSTORE(場)	小林茂	研究・リサーチ
哲学者・久松真一の系譜 岐阜に息づくフリースタイルの思想	2024.07.01	OKB REPORT2024	松井茂	文化活動
NxPC.Live vol.70 交通の要所、爆音にて	2024.07.20	IAMAS Gallery2	平林真実	パフォーマンス・上演
FORMATA - KOBAI No.7	2024.07.26	ロスアンデス大学 人文芸術学部美術史学科 (出)	ホアン・マヌエル・カストロ	出版・寄稿 研究・リサーチ
イアマスこどもだいがく2024「もしもしワールド ～糸でんわから考える通信コミュニケーション～」	2024.07.27	大垣市、情報科学芸術大学院大学［IAMAS］(主) ソフトピアジャパン・センタービル (場)	鈴木宣也　赤羽亨　高森順子	産学官連携 ワークショップ
日本福祉大学xいぶき福祉法人(インターンシップ)	2024.08.01 — 翌09.01	社会福祉法人いぶき福祉会	金山智子	指導
神楽岡久美 菅実花「PROTOPIA」	2024.08.03 — 08.18	Gallery10[TOH] (場)	菅実花	展示
第88回草の根交流文化サロン in SEINO「河野大助の画業とその生涯～鎮魂～」	2024.08.10 — 09.08	土川商店「場所かさじゅう」 (場)	金山智子　前林明次	展示 文化活動
クワクボリョウタ｜浅野耕平『ゆめプラの「旅」と「ものがたり」』	2024.08.24 — 09.09	武豊町民会館 ゆめたろうプラザ (場)	クワクボリョウタ	展示
池田高校　探求学習の時間	2024.09.01 — 翌02.01	池田高校	金山智子	地域連携
「Women’s Lives 女たちは生きている ―病い、老い、死、そして再生」展覧会記録集	2024.09.01	さいたま国際芸術祭2023 市民プロジェクト「創発inさいたま」「Women’s Lives 女たちは生きている ―病い、老い、死、そして再生」(主)	菅実花	出版・寄稿
Mid Japan Sound Complex Art Festival 2024	2024.09.01	ミッドジャパン音の芸術祭実行委員会 (主)、アートラボあいち (場)	飛谷謙介	パフォーマンス・上演
情報処理学会エンタテインメントコンピューティングシンポジウム(EC2024) 平林 真実, Scott Allen, 白石 覚也,薄暗い場所におけるAR表現のための手法とコンテンツの検討	2024.09.02 — 09.24	北海道情報大学	平林真実	学会
情報処理学会エンタテインメントコンピューティングシンポジウム(EC2024) 平林 真実, 乱数発生器を用いた音楽会場における観客の反応提示の可能性	2024.09.02 — 09.04	北海道情報大学	平林真実	学会

名称	開催時期	場所・主催・共催・出版社・その他	担当教職員	カテゴリー
情報処理学会エンタテインメントコンピューティングシンポジウム(EC2024) 鶴目 佳蓮, 天野 憲樹, 平林 真実, 舞台照明器具を用いたマルチカラースイッチングアニメーションの提案と実験	2024.09.02 — 09.04	北海道情報大学	平林真実	学会
HEAVEN ON EARTH	2024.09.06 — 11.16	Stadtbibliothek Reutlingen（ロイトリンゲン市立図書館）(場)	赤松正行	展示
フォーラム「Art for Well-being ー表現とケアとテクノロジーのこれから」	2024.09.14	山口情報芸術センター［YCAM］(場・企) 一般財団法人たんぽぽの家(企)	小林茂	フォーラム
スイトピア×イアマス連携展示 うごキズム ～うごく・うごかす・うごきをみる～	2024.09.28 — 11.04	大垣市文化事業団・情報科学芸術大学院大学［IAMAS］(主) 大垣市スイトピアセンター　アートギャラリー (場)	赤松正行　クワクボリョウタ 瀬川晃	展示
インターネットに「間」を探る 藤幡正樹《Light on the Net》 岐阜県大垣市ソフトピアジャパンの先取の精神	2024.10.01	OKB REPORT2024	松井茂	文化活動
光と影の不思議展	2024.10.12 — 翌01.13	浜田市世界こども美術館 (場)	クワクボリョウタ	展示
間展再考 —— 戦後日本美術による伝統美学の脱構築とキッチュ化	2024.10.14	第75回美学会全国大会	松井茂	学会
南飛騨 Art Discovery「仮想温泉」	2024.10.19 — 11.24	南飛騨アートプロジェクト実行委員会 (主) 南飛騨健康増進センター (場)	クワクボリョウタ	展示
ドキュメンタリー・ドリーム・ショー：山形in東京2024	2024.10.25 — 11.15	シネマトリックス (主)、新宿K's cinema 、アテネ・フランセ文化センター (場)	前田真二郎	上映
「清流の国ぎふ」文化祭2024 DX時代のメディア表現——新しい日常から芸術を思考する	2024.11.01 — 11.07	IAMAS附属図書館ほか	松井茂	文化活動
原点を見つめ未来へつなぐ　新旧の表現、問う価値観	2024.11.01	岐阜新聞	松井茂	掲載
DX時代のメディア表現——新しい日常から芸術を思考する　池田町有線放送電話プロジェクト《池田町有線放送アーカイブ》	2024.11.01 — 11.07	オンライン、ワークショップ24［大垣］(場) 久松真一記念館　OKB総研 (協) 情報科学芸術大学院大学［IAMAS］(主)	金山智子（代表）瀬川晃 前林明次　山田晃嗣	展示 地域連携
DXが進む現代、先駆者のアート 大垣でIAMAS展覧会	2024.11.02	中日新聞	松井茂	掲載
たるい相川こいのぼりデザインコンテスト	2024.11.09	垂井町観光協会	瀬川晃	審査 地域連携
2024 台北攝影上桌PHOTOGO	2024.11.11 — 12.22	1 IMAGE ART /一影像 (主)	菅実花	審査
有楽町藝大キャンパス「メディア特論：アート+」	2024.11.13	YAU STUDIO (場)	クワクボリョウタ	講演
ネットワーク大学コンソーシアム岐阜令和６年度公開講座「岐阜に生きる岐阜と生きる」	2024.11.21	岐阜商工会議所	金山智子	講演
メディフェス 2024 in 関西	2024.11.23	立命館大学いばらきキャンパス	金山智子	展示
東京大学×ソニーグループ 越境的未来共創社会連携講座「Tech Bias —テクノロジーはバイアスを解決できるのか？」展	2024.11.23 — 11.25	東京大学情報学環オープンスタジオ (場)	菅実花	展示
NxPC.Live vol.71 OMMF	2024.11.23	ソフトピアジャパンセンタービル セミナーホール	平林真実	パフォーマンス・上演
glow – in practice	2024.11.29 — 12.11	新宿眼科画廊 (場)	赤羽亨　飛谷謙介	展示 制作・開発・デザイン
美学会西部会 第351回研究発表会『「技術」としての芸術の批評に向けて——エマヌエーレ・コッチャの「繭」の理論の再考』』	2024.12.07	名古屋大学 (場)	大久保美紀	研究・リサーチ 学会
ケアリングカフェ「ケアとメディア ～お菓子とラジオと防災と～」	2024.12.11	社会福祉法人いぶき福祉会	金山智子	講演
国際会議「RE:SOURCE 2023」論文「Extending Research in New Media Art Conservation: A Bergson-Inspired Multi-Timescale Approach」	2024.12.11	RE:SOURCE (出)	小林茂	研究・リサーチ
龍のDNA、架空のミニ惑星… 科学×アートが創る未来	2024.12.21	日経新聞	ホアン・マヌエル・カストロ	掲載 研究・リサーチ
NxPC.Live vol.72 暗楽と影像	2025.02.22	セミナーホール	平林真実	パフォーマンス・上演
情報処理学会インタラクション2025 伏田 昌弘,平林真実, 生体情報と Avatar を用いた MR 空間における 音楽セッション体験の提案	2025.03.02 — 03.04	学術総合センター	平林真実	学会
石に話すことを教える: 生きるという〈わざ〉	2025.03.15 — 03.30	art-sensibilisation (主)、瑞雲庵 (場)	大久保美紀	展示 研究・リサーチ
NxPC.Live vol.73	2025.03.19	Circus Tokyo		パフォーマンス・上演

■ 詳細情報

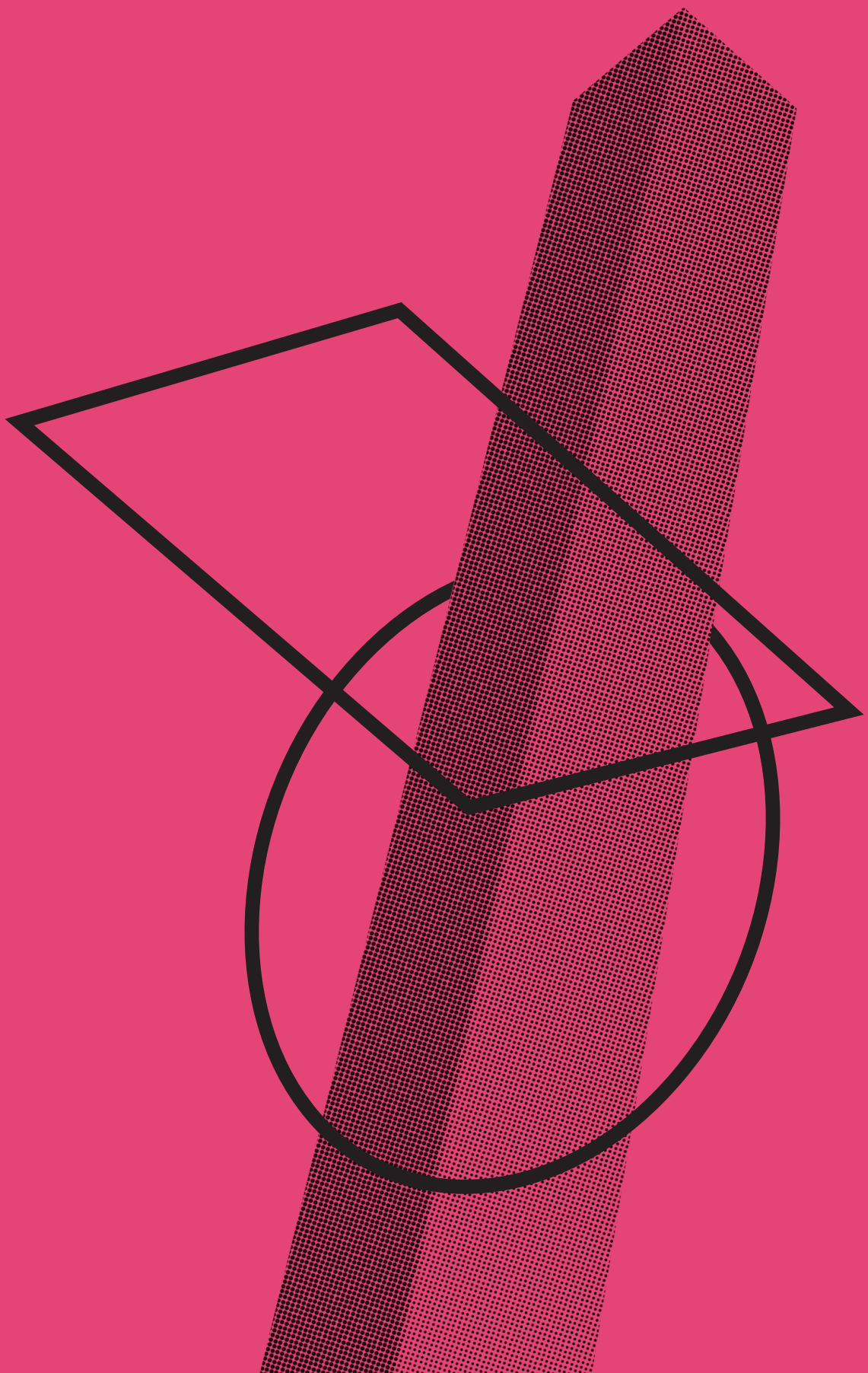
各活動の詳しい情報は左記の QR コードからご確認いただけます。

IAMAS RCIC Annual Report 2024
- IAMAS 産業文化研究センター　年次報告書 -

2025年2月発行

監修 : 赤羽 亨（RCIC センター長・IAMAS 教授）
編集 : 高森順子（RCIC 研究員）
デザイン : 近藤崇司　山岸舞子（GOCCO.）
発行 : IAMAS産業文化研究センター（RCIC）
印刷 : ニホン美術印刷株式会社

IAMAS産業文化研究センター（RCIC）
〒503-0807
岐阜県大垣市今宿6丁目52-18 ワークショップ 24 5階
https://www.iamas.ac.jp/rcic/
rcic@ml.iamas.ac.jp



RCIC

Research Center
for Industrial Culture

情報科学芸術大学院大学産業文化研究センター